

# 備えは大丈夫？

## わが家の

# 防災

平成23年3月11日、午後2時46分。マグニチュード9.0、最大震度7を記録し、死者・行方不明者約2万人、住宅被害(全壊、半壊、一部損壊)約82万棟という被害をもたらした東日本大震災が発生しました。本市でも全壊の家屋が出るなど被害は甚大でした。

2年9カ月が経過し、自分たちが暮らしている街が日常を取り戻すと、震災の記憶や教訓が薄れがちになつてしまっています。

1月15〜21日は、防災とボランティア週間です。災害の発生は止めることはできません。この機会に、いつ起こるか分からない地震などによる被害を最小限にするため、防災についてもう一度考えてみましょう。

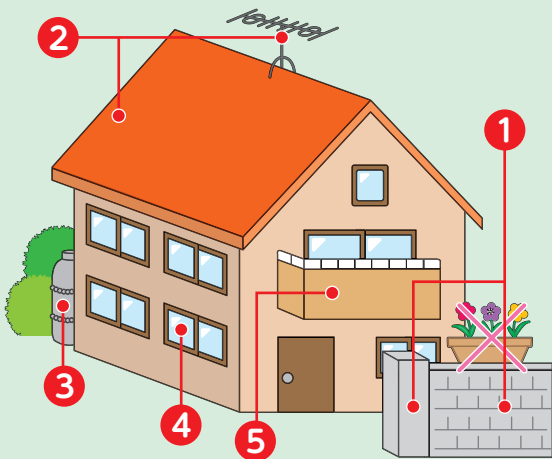
### 考えよう わが家の災害

地震などの災害は突然襲ってきます。家族が一緒のときに起こるとは限りません。どんなときでも慌てず、的確な対応ができるよう、日ごろから家族で確認しておくことが大切です。まずは、次の6つのテーマについて、話し合ってみま

しょう。

- 1 家族の役割を決める 日常の防災対策の役割と災害発生時の役割を決める。高齢者や乳幼児、妊婦がいる家庭では、誰が誰を保護するのか決めておく。
- 2 危険箇所のチェック 家の内外に危険が無いかチェックして、事前に十分な安全対策をしておく(下記参照)。

## 家の周囲の備え

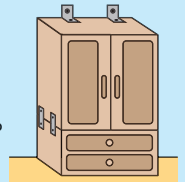


- 1 **ブロック塀・門柱** 土の中にしっかりと基礎部分が無いものや、鉄筋が入っていないものは補強する。ひび割れや傾き、鉄筋のさびも修理する。植木鉢など、落下の危険性があるものは置かない。
- 2 **屋根** アンテナはしっかり固定する。瓦にひび割れや、ずれ、はがれがある場合は補強する。
- 3 **プロパンガス** ボンベを鎖などでしっかり固定する。
- 4 **窓ガラス** 窓枠のがたつきがないか点検する。飛散防止フィルムを貼る。
- 5 **ベランダ** 常に整理整頓する。植木鉢や物干しざおなどは、落下の危険性がある場所には置かない。

## 家の中の備え

- **逃げ場となる安全なスペースを作る** 人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。難しい場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えをする。
- **寝室や、子ども・高齢者・病人がいる部屋には家具を置かない** 就寝中に地震が発生したとき、倒れやすい家具があると危険。
- **出入口や通路に物を置かない** 安全に避難する通路を確保するため、できるだけ物を置かない。
- **家具の転倒・落下の防止対策をとる** 家具と壁や、家具と柱の間に空間を作らない。固定器具や、家具の転倒防止シートなどを利用して、転倒や落下を防ぐ。

▽ **たんす・本棚** L字金具や支え棒などで固定。2段重ねの場合はつなぎ目もしっかり連結しておく。本は重いものを下に、軽いものを上に置く。



▽ **食器棚** 扉が開かないように留め金を付ける。収納物の落下を避けるために、棚板には滑り止めのシートなどを敷く。



▽ **テレビ** 家具の上などは避け、できるだけ低い位置に設置し、しっかり固定する。上には水槽や花瓶などを置かない。

▽ **照明器具** 鎖と金具で数カ所留めて補強する。

**3 非常持出品を備える** 家族構成に合わせて必要なものがそろっているか確認する。定期的に保存状態や賞味期限などを点検し、必要があれば交換する（下の図を参照）。

**4 防災知識を身に付ける** 新聞やテレビなどから防災に関する情報を収集し、普段から知識を身に付けておく。本市では、防災についての出前講座も開催しています。

**5 家具類の転倒・落下防止** 家具やテレビ、冷蔵庫などを固定し、転倒や落下防止措置をしておく。けがの防止や避難に支障が無いように家具を配置しておく。

**6 避難場所を確認する** 地域の避難場所などを確認する。休日などを利用して、避難ルートを実際に歩いてみる（8・9ページ参照）。

**家の中で地震が起きたら**

揺れを感じたら、丈夫な机やテーブルの下に身を隠し、落ち着いて身の安全を確保しましょう。また、事前にテレビやラジオなどが

ら緊急地震速報が流れた場合は、周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。

揺れが収まったら、使用中のガス器具、ストーブなどの火を消し、ガスの元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜きましょう。万一、出火したら、消火器などで火が小さいうちに消し止めましょう。

**車を運転中に地震が起これたら**

急ブレーキは禁物です。前後の車に注意しながら徐々にスピードを落とし、道路の左端に停車しましょう。

エンジンを切り、揺れが収まるまでは車外に出ず、ラジオを付け、状況を把握してください。車の鍵を付けたままドアをロックしないで、連絡先を車外から見るとところに書き、車検証などの貴重品を持って徒歩で避難しましょう。

また、車での避難は緊急車両の妨げになりますので、基本的にはやめましょう。

**非常持出品の確認は大丈夫ですか**

**最低限そろえておきたいもの(家庭内備蓄)**

災害時に避難する時に持ち出す最小限必要なもので、すぐに取り出せる場所に保管し、復旧までの数日間(少なくとも3日間)を自活できるように準備しましょう。

※普段からチェックしましょう☑

**食品** 乾パンや缶詰、レトルト食品、ドライフーズ、チョコレート、あめ、梅干など、そのまま食べられるものや簡単な調理で食べられるもの。乳幼児が居る場合の粉ミルクも忘れずに。



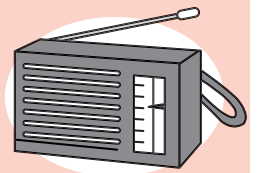
**水** 飲料水は大人1人当たり、1日3リットルが目安。ペットボトル入りが便利。



**貴重品** 現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証など。



**携帯ラジオ** 小型で軽く、AMとFMの両方聞けるものが良い。予備の電池も多めに。



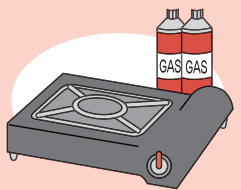
**懐中電灯** 家族1人に一つ。予備の電池、電球も忘れずに。



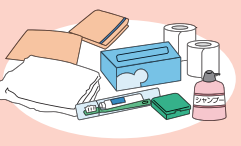
**救急医薬品** 傷薬、ばんそうこう、解熱剤、風邪薬など。常備薬があれば忘れずに用意。



**燃料** 卓上こんろや固形燃料、予備のガスボンベなど。



**その他** ヘルメット、上着、下着、タオル、軍手、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、紙の食器、ライター、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、マスク、携帯トイレ、トイレットペーパー、使い捨てカイロ、生理用品、紙おむつ、哺乳瓶など。



# あなたのまちの避難場所

## ● 一時避難場所

地震などによる災害が発生した場合、一時的に避難し、様子を見て情報を得る場所です。

## ● 広域避難場所

地震などによる火災が拡大し、<sup>ふくしゃ</sup>放射熱や煙による二次災害の危険から、市民の安全を確保す

る場所です。

## ▲ 避難所

災害が一段落した後、住宅を失った市民や帰宅できない人などが臨時に生活する所です。

※一時避難場所・広域避難場所は、市街地で空き地が少ない地域のみ指定しています。







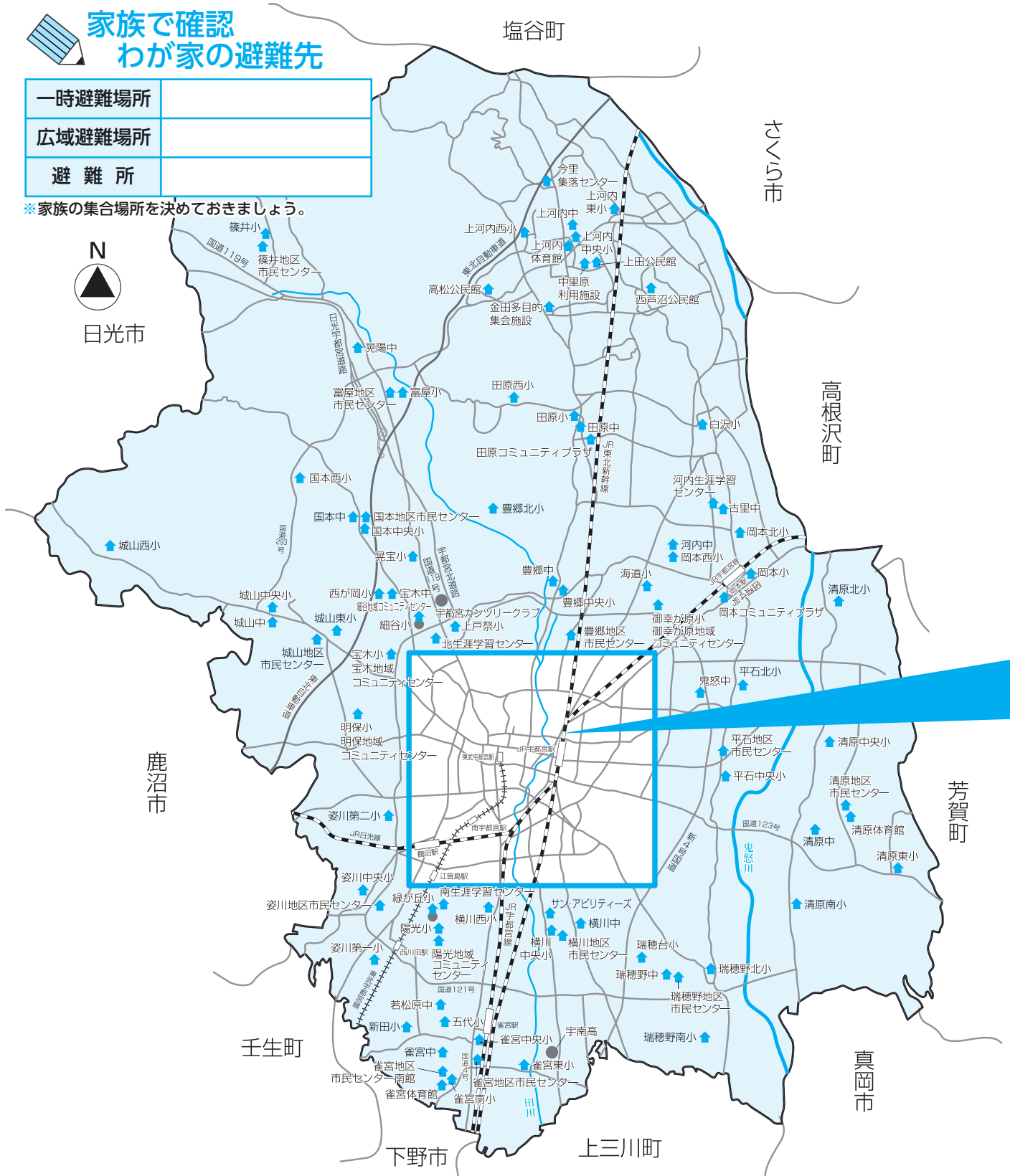
# 家族で確認 わが家の避難先

一時避難場所	
広域避難場所	
避難所	

※家族の集合場所を決めておきましょう。



日光市



連絡の取り次ぎをしておく  
おきましょう。

いよう家族や友人、連絡の取り次ぎをしておく  
おきましょう。

携帯電話がなくても、連絡の取り次ぎをしておく  
おきましょう。

**③ 連絡の中継点となる遠方の親戚・知人を決めておく**

○×小へ  
行きます  
6/1 AM9:00  
宮太郎

ガムテープの上に油性フェルトペンで書くとう便利

**② 2か所に避難したかを書いておく**

(家)のここに貼って置くかも確認

避難経路も合わせて2ルートぐらい確認

**① 集合場所・一時避難場所**

家族で決めよう  
連絡ルール